



国土交通省

NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 大樽、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和7年8月26日

～ 内航船員の確保・育成対策 ～ 工業高校の生徒及び教諭等を対象に 海技大学校の練習船「海技丸」体験航海及び校内見学会 を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が50歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、若年船員の確保に向けて各種の事業を実施しています。

今般、工業高校の生徒及び教諭等を対象に、機関部船員への興味・関心を持っていただけるよう、海技大学校の協力を得て練習船「海技丸」での体験航海及び校内見学会を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日： 令和7年8月5日（火） 10時00分～16時00分

場 所： 海技大学校（兵庫県芦屋市）

参加者： 工業高校の生徒及び教諭等 計 12名

【主なカリキュラム】

- 船内見学会 練習船「海技丸」
- 校内見学会 操船シミュレータ体験、配電盤シミュレータ体験、船用ディーゼル機関

主催： 近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会、
神戸地区内航船員確保対策協議会、（公社）近畿海事広報協会、
（公社）神戸海事広報協会

協力： 海技大学校



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

工業高校の生徒及び教諭等を対象に 海技大学校練習船「海技丸」での体験航海及び校内見学会 を実施しました！

近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運（株）代表取締役会長）、神戸地区内航船員確保対策協議会、近畿海事広報協会、神戸海事広報協会及び海技大学校は、令和7年8月5日（火）、海技大学校の練習船「海技丸（かいぎまる）」において、工業高校の生徒及び教諭等を対象とした体験航海を実施するとともに校内見学会を開催しました。

本企画は、内航海運業界において特に機関部船員の確保・育成を目的として、機関士という職業に興味・関心を持っていただきやすい工業高校の生徒等を対象として、内航海運の全体像を紹介し、船員教育機関への進学の流れや、内航船員を職業選択肢の一つとしてもらうことを目的として実施しております。

当日は、大阪府、兵庫県、奈良県の工業高校の生徒等12名（生徒6名、教諭等6名）が参加しました。



まず開講式では、近畿運輸局海事振興部の三浦次長から「日常生活に必要な食料品・日用品や工業製品などの多くの物資を運んでいる‘内航海運’で働く船員について触れ、将来の職業選択肢の一つとして‘船員への道’も視野に入れて欲しい」との挨拶があり、見学会はスタートしました。

午前の部の海技大学校の校内見学会では、2班に分かれて、各地の港を再現したシミュレータ室での操船を体験する「操船シミュレータ」、近年の船舶の大型化や電力効率の向上を目的とした高電圧電源を用いた技術を体験する「配電盤シミュレータ体験」、及び校内実習棟に設けられた4サイクルディーゼル機関の運転操作を体験する「船用大型ディーゼル機関の運転操作」を、海技大学校の教員から説明を受けながら受講しました。

はじめて目にするシミュレータを前に、参加者は高い関心を持ったようで、シミュレータを用いた体験では、班員同士でコミュニケーションをとりながら、非常に和気藹々とした様子で協力しつつ、実習に参加していたことが印象的でした。

各体験を通じて、職務別の役割や、作業内容、使用する機器や用具について学び、細部に至るまで見学していました。





午後の部では、全員で練習船「海技丸」に移動し、六甲アイランドを1周する乗船体験を実施しました。

最初に、船長から海技丸に関する説明を受け、その後は2班に分かれて船橋説明、機関室説明を実施しました。

普段は入ることができない船橋（ブリッジ）に入って航海士の操船の様子や、機関室に入ってディーゼル機関を間近で見ってもらうなど参加者を飽きさせない工夫

を凝らし、約1時間の航海はあっという間に過ぎていきました。

船内見学後、船内でそのまま閉講式となり、神戸運輸監理部海事振興部の岡村部長から船長経験を踏まえた話などを交えながら、「今回の見学会を機に、船員という仕事に理解を深めていただければ幸いです」との挨拶をもって、体験航海及び船内見学会は終了となりました。



見学会終了後のアンケート結果において、生徒からは「国内輸送で海運が占める割合（が多いということ）を改めて認識できた」「（船について）自分があまり知らなかったことが知れて、将来の職業として船員になることも少し思った」などの回答があり、生徒に海運の重要性について理解を深め、海や船に興味を持ってもらえたと思います。

また、その他の回答においても、今回の見学会の実施によって、「海の上を走る楽しさを知れた」「船の仕事をしてみたい」など、船員という職業自体に前向きな印象を抱いた生徒が多く、船員を職業の選択肢として考えるきっかけになったものと思われます。教諭等の方からも、「実際に船に乗り色々なところを見学できたのが良かった」「校内の設備が整っていて、運航の様子がよく分かった」との評価をいただきました。

近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会、神戸地区内航船員確保対策協議会、近畿海事広報協会及び神戸海事広報協会では、内航船員の確保・育成を推進していくため、工業高校生への働きかけも含め、引き続き活動を強化していきたいと考えています。

（近畿運輸局 海事振興部 船員労政課）